

蒲原ガス株式会社

新潟県新潟市／バルブ開閉器(令和6年度実施)
ガバナ遠隔監視システム(令和7年度事業進捗中)

レジリエンス補助金について、バルブ開閉器の申請を担当された工務部供給課の土田課長代理と同導管管理係の佐藤係長、ガバナ遠隔監視システムの申請を担当された、同じく工務部供給課の小林係長にお話しをお聞きました。

補助事業の導入経緯について

日本ガス協会からの正会員通知と、新潟県ガス協会の情報提供により「レジリエンス補助金」を知りました。

【バルブ開閉器】

導入に至った経緯: 応援受入訓練を実施するにあたり、数か所が特殊バルブであることが判明しました。災害時に現場へ出動する際、多種多様なバルブ開閉器を持参するリスクを低減し、迅速な現場対応を可能にするため、製作に至りました。

補助金活用の経緯: 特殊バルブの開閉器の製作コストを削減することができるため、補助金を活用することになりました。

申請期間: 4月に補助金の説明会があり、6月中旬に申請をしましたので、準備期間は1ヶ月半ほどでした。

請負業者への発注経緯: 3社による競争見積りの結果、請負業者への発注となりました。バルブ開閉器を取り扱っている事業者はある程度限られてしまいましたが、弊社と過去に取引のあった事業者を含めて見積りを依頼したところ、最も安価な金額でした。



土田課長代理: 2/3の高い補助率は導入を後押ししました。



佐藤係長: 災害時に迅速なバルブ開閉作業が期待できます。

【ガバナ遠隔監視システム】

導入に至った経緯: 近年、地震をはじめとした自然災害が激甚化・頻発化し、都市ガスの供給支障も発生しております。ガス事業者として、安定供給、保安の確保が責務です。遠隔で圧力を監視することで圧力異常を早期に検知し、2次災害防止に役立てたいと考え、ガバナ遠隔監視システムの導入を決定しました。また、ガバナ設置数も多く、チャート用紙の回収や点検にも多くの時間を費やしていたことを改善することも要因でした。



小林係長: 現地まで行かないと分からなかったガバナの稼働状況が、本社に居ながらにして確認できます。

補助金活用の経緯: 導入を検討していたところ、補助金事業が新設されました。課題であったイニシャルコストの低減ができることが、補助金を活用するに至ったポイントです。

申請期間: 4月下旬より準備を始め、6月上旬に申請致しました。準備期間は約1ヶ月でした。

請負業者への発注経緯: 当社が導入する遠隔監視システムにおいて、取り扱いのある事業者は限られており、保安の観点からも経験のない工事会社へ発注することは困難と考えていました。同社は豊富な知識・経験を有しているほか、実績からも施工技術の信頼性を高く評価しました。



ガバナ圧力監視システム



ガバナ遠隔監視システム フロー図

ガバナ遠隔監視システムの機能について

弊社のガバナ施設は電気設備がほぼ備わっておらず、導入にあたっては電池式タイプのシステムを希望しておりました。施設数も多いため、電気工事が不要な電池式による通信を可能にするのを重視し、さらにできるだけ費用を抑えて導入したいと考えていました。

交付決定（採択）後の事業遂行にあたっての不安点と、その解消法について

【バルブ開閉器】

事業の遂行については、申請時に計画を立てていたものの、実績報告のまとめ方について不安はありました。しかし、申請時と同様、都市ガス振興センターや日本ガス機器検査協会の担当者に随時確認を取りながら作成ができたため、その不安は解消されました。

【ガバナ遠隔監視機能】

申請に関しては、前年にバルブ開閉器の申請を行っていたこともあり、不安はありませんでした。実際には、中間報告や実績報告の内容で前年のそれと違いがあり、心配になりました。不明な点は、発注先、都市ガス振興センター、日本ガス機器検査協会の担当者と随時確認を取りながら作成することができ、不安は少しずつ解消されて行きました。

災害時を想定した変化について

【ガバナ遠隔監視機能】

今までは実際に現地まで行かないと、ガバナの稼働状況がわかりませんでした。本社にて確認できるようになる遠隔監視システムは、安定供給並びに保安レベルの向上に繋がるシステムであり、災害時の信頼性が大幅に上がることが期待できます。

今後、補助金活用を検討されている方々へのアドバイス

【バルブ開閉器】

補助金の上限額が50万円と安価に感じと思いますが、自社で製作した場合と比較すると2/3という高い補助率で補助金をいただくことができます。特に、多種多様なバルブを使用しているガス事業者様においては、バルブに合わせた開閉器を用意することなく、今回製作したバルブ開閉器を使用することにより、災害時に迅速に対応することができると考えています。



バルブ開閉器の組み立て作業



バルブ開閉器の操作

【ガバナ遠隔監視機能】

ガバナ遠隔監視システムの導入は非常に高コストであり、新規設置が難しい状況でした。しかし、補助金の活用によってコスト面の課題が解消され、導入が実現しました。補助事業で申請など難しく感じる事業者様がいますが、都市ガス振興センターや日本ガス機器検査協会の担当者様がサポートしていただけますので、補助金を活用できるうちに、ぜひ応募していただければと思います。

〈補助事業者概要〉

代表者: 高井 聡 代表取締役社長
需要家数: 34,444個(2025年3月末) 従業員数: 50人

〈補助事業概要〉

バルブ開閉器

導入時期: 令和6年8月23日
導入設備: バルブ開閉器「47×47」「19×19」3セット
設備の用途・機能・目的: 災害時に応援事業者が、被災事業者の本支管バルブ・供給管バルブの開閉等を行う際、型式の違うバルブを開閉することが可能となる工具。

ガバナ遠隔監視システム

導入予定時期: 令和8年1月末予定
導入内容の概要: 令和7年度: 子局側装置(ガバナ46カ所)の新規導入
設備の用途・機能・目的: ガバナ遠隔監視。
圧力等を常時遠隔監視することによる異常の早期把握。
導入予定設備: デジタル式自記圧力計、警報ユニット、通信ユニット